

花粉症の季節がやってきました。2022年の花粉飛散量は全国的に多くなる見通しで、昨年と比べて1.5～3倍とされています。また飛散期間も長くなると予測されています。本格的な花粉シーズンを迎え、抗アレルギー薬を服用される方も多いのではないのでしょうか。

受診して処方される花粉症の薬は、第2世代抗ヒスタミン薬というカテゴリーの抗アレルギー薬が多く、近年では効き目が早いものや眠気の副作用が少ないもの、食事に関係なく服用できるものなど特長のある新薬が相次いで登場しています。

ドラッグストアなどで購入できる抗アレ

ちよつと得する
クスリ
の
知
識
<106>

スイッチOTC、薬剤師に相談を

ルギー薬もあり、その中でも「スイッチOTC医薬品」は病院で処方される薬と同等の効果が期待できます。スイッチOTC医薬品の抗アレルギー薬として、エピナスチン、ペミロラスト、フェキソフェナジン、セチリジン、エバスチン、ロラタジンなどがあります。効果の半面、処方薬と同等の副作用がありますので、購入時には薬剤師からしっかりと説明を受けた上で、用法用量を守ってご使用ください。

スイッチOTC医薬品は、元々病院で医師に処方してもらわなければならなかった

医薬品のうち、効き目が確かで、使用実績があり、比較的副作用が少ない安全性の高い医薬品を、薬局・薬店などで購入できるように転用（スイッチ）したものです。その購入費用については、条件を満たせば「セルフメディケーション税制」により所得控除が受けられます。抗アレルギー薬だけでなく、痛み止めや胃薬、水虫薬など多様ですので、薬を購入する際、薬剤師と相談してみるのも良いでしょう。

（牧野 和也・県病院薬剤師会理事）

<毎月第4火曜日に掲載>